

授業科目 音響学

【担当教員名】  吉岡 豊	対象学年	1	対象学科	言語	
	開講時期	前期 a	必修選択	必修	
	単位数	1	時間数	15	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○	◎			
【概要・一般目標：G10】 言語聴覚士として必要な音の性質に関する知識を習得する。					
【学習目標】 1. 音の性質（屈折、回折など）について理解する。 2. 音響学で用いる用語について説明できる。 3. 音の単位 dB について理解し計算できる。 4. 音のスペクトルについて理解する。 5. 音声の音響学的特徴を理解する。 6. 音の AD 変換について述べる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	音について			1, 2	
2	音の強さの尺度			3	
3	音のスペクトル			4	
4	フィルター（伝達関数）			2, 5	
5	音声生成の音響学（フィルター理論）			5	
6	音声の音響学			5	
7	音声の AD 変換（標本化）			6	
8	音声の AD 変換（量子化）			6	
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>	
教科書 (必ず購入する書籍)	言語聴覚士の音響学入門	吉田友敬	KAIBUNDO	2005・2,600円＋税	
参考書	言語聴覚士のための音響学	今泉 敏	医歯薬出版社	2007・3,800円＋税	
	聴覚と音響心理	境 久雄 編著	コロナ社	1978・4,600円＋税	
	言語聴覚士のための基礎知識 音声学・言語学	今泉 敏 編集	医学書院	2009・3,800円＋税	
その他の資料					
【評価方法】 2/3以上の出席をして定期試験受験資格が得られる。 成績評価は原則として定期試験の結果を持って行う。			【履修上の留意点】 教科書に付いている CD を積極的に活用すること。		